

足と靴、悩みに応えます

歩くとき痛いタコ、外反母趾

歩くとき痛いウオ、タコ、そして外反母趾。足と靴のごで悩んでいませんか。そんな方好評なのが、足と靴のお悩み無料相談会です。主催するのはNPO法人「靴総合技術研究所」(新宿区西落合)で、新宿区中落合の落合第一地域センターで行っています。毎回予約でいっぱいになっていますが、15日に開かれた5回目の相談会を訪ねました。

安心して歩ける
「横のアーチが下がって、外反母趾に」
「もなりやすい。指の変形は靴が原因になる場合もありますよ」。相談者の女性「優しく語りかける

無料相談会が好評 エルデ 渡辺さ江さん

のは、足と靴の相談室エルデ(新宿区西落合)の渡辺さ江さんです。相談者の女性は35歳、新宿2丁目で、指の間ウオ、外反母趾による足の痛みの悩み、3年前にケニアックでスニーカー用中敷きを作りに、履いていましたが、ところが半年で前かか足首にも痛みが出るようになったと言います。

「測るで写し取った足型をじつと見ます。体重がかかっている部分ほど濃く印刷され、指や土踏すの形や反り具合、指の向き、タコりの位置などが分かります。」「少しの痛みなので、この靴なら安心して歩けるでしょ」。渡辺さんは用意した黒い革靴は、足首までベルトで固定がき、つま先は丸くなっています。歩き方も指導します。「腰を立てて背筋を伸ばして、膝をピンと伸ばして、踵から着地してください」。

女性は「安心して歩けますね。歩くのも楽になるかな。毎朝の散歩や買い物、友だちと会っておしゃべりするのが生きがいで、歩けなくなるのが怖い。病院は手術を勧められ、リハビリを終えて歩けるようになった。」「半年以上はかかると言われているので、この靴を履いてみます」と思い、靴と一緒にごり。女性は目を改めてエルデを訪ねることにしました。

相談会は予約制で入り30分。この日は10人が訪ねました。つままずかた、夫の相談に同行し妻は、試しに履かれた中敷きを靴に入れて歩く姿を見て、「中敷きでなぜこんなに歩き方が変わるんですか」と驚きの声をあげました。

「マスター」学ぶ。渡辺さんは、ドクターの整形外科靴「マウスター」(ドイツの国家資格者)から7年かけて技術を学んだ。この道30年のベテラン技術者です。一般的な足と靴の悩みの他に、リウマチで変形した足先を歩ける靴がなかった人や、脚の長さが左右で違う人、ホリオの後ろで歩けなかった人など、医療との連携が必要なケースも多く扱っています。

提供する靴は、マウスターの弟子仲間と設立したNPO法人靴総合技術研究所(靴総研)が開発し、福岡で作っています。その靴や中敷きを渡辺の



「足と靴の相談室エルデ」で独自に開発した靴を持つ渡辺さん＝新宿区



フットプリンターで足底を、足の形状を測定する渡辺さん



足首まで固定する靴を試しに履く相談者

んが、相談者「入ひとりの足に合わせ、カスタマイズします。」「歩行が困難な障害や麻痺のある人も、医師の診断を基に一人ひとりの技術者が作ったものは、保険適用を認めない保険者にも使用される中敷きを、作ることで、歩行が大きく改善する事例はたくさんあります」と、渡辺さん。一方で、靴や足底板の知識のある医師が少ないと嘆きます。

保険の不適用も
さらに、自分に合った靴と出会えない患者は、深刻な問題が起きている。せっかく医師が診断して作製した医療用の靴(靴型装具)なのに、保険適用を認めないケースが生じているからです。原因は、2018年に厚

生労働省が保険請求の不正防止を目的に出した通知。領収書を「中敷き」と名前を取った義肢装具士以外の技術者が作ったものは、保険適用を認めない保険者が生まれたのです。協会が元々、東京では都後期高齢者医療広域連合がそうです。

従来通り靴型装具に保険適用を求めようとする者が少なく、不支給の理由が「一か所に合うように靴を加工します」

この機械で「一か所に合うように靴を加工します」

「足と靴の相談室エルデ」
電話 03 (3954) 3636
相談は完全予約制
定休＝水・木

渋滞の取り消しを求める方が東京高裁で係争中。渡辺さん「靴総研も扱っています。」「足や脚の障害や痛み、麻痺は歩行が困難な人たちの悩みに応え、自力で力になりたいというのが原動力。そのため医師との連携による良質な靴やインソールの提供が私たちの大切な仕事だと考えています」